



校報「山王」

# 山王魂 やる気燃ゆる者 道を拓く

～違いを認め合い、互いの幸せを目指す生徒～

秋田市立山王中学校 令和8年1月30日 第15号

## 年のはじめに ～目的を踏まえて、目標を設定する～

今年午年です。午年はエネルギーが高まり、情熱的な一年になるといわれています。山王中にとっても、前へ前へと突き進む一年にしたいと思います。

新年を迎えたと思ったのも束の間、1月が終わろうとしています。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」ということわざがあるとおり、1月から3月までの3か月間は、とても早く過ぎ去ることの例えとして、この言葉がよく使われます。時間に流されることなく、先を見通しながら、地に足をつけて過ごしていきたいと思います。

冬休み明け集会で、新年のスタートや冬休み明けのスタートに当たり、「目標」と「目的」の違いについて話しました。「目標」の標は、「しるし」であってゴールではなく、いわば途中経過であること。それに対して「目的」の的は、「まと」であってゴールであること。細かく小さな目標を一つ一つクリアしながら目的に迫る場合もあれば、一つの目標をクリアしても目的にたどり着かず、目標を修正しなければいけない場合もあること。高校や職業といった夢や目標の先にある「何のため」に当たるのが「目的」であり、「社会のため、人のため」という意味が加わることによって山王中の目指す「志」に当たるものになることなどを伝えました。受験に向かう3年生や春・夏を見据えて部活動等に励んでいる1・2年生に、今の自分に置き換えて考えてほしいとの思いからこのテーマを選びました。世のため、人のため、いかに生きるかを探し求めて、毎日の生活を充実させていってほしいと願っています。

高校とか職業とか、、、

夢や目標の  
先にあるもの

↓  
何のため? 人のため  
社会のため  
目的 = 志

## 冬休み明け集会 ～生徒会長からのメッセージ～

生徒会長 2年5組 伊藤 志真

冬休みが明け、今日からまた学校生活が始まります。

新しい年を迎え、山王中生徒会では「大樹～一人一人が支え合い、さらなる高みへ手をのばせ～」というスローガンのもと活動を行っていきます。

私は去年の生徒会活動を振り返ってみて気付いたことが一つあります。それは執行部と生徒のみなさんとの間に少し距離を感じたことです。だから今年は山王フェスタなどの行事の内容を生徒のみなさんの意見や要望を多く生かしたものにしていきたいと思います。その課題を解決するために生徒会では、Willポストの設置場所を増やすとともにポストの周知を図っていくことを検討しています。そして、みなさんにも協力してほしいことがあります。それは執行部への意見があれば飲み込まずに書いて、Willポストに入れてほしいことです。2026年はみなさん一人一人の意見とともに学校をつくっていく一年にしたいと思います。

次に、この一年、みなさんに意識してほしいこととお話しします。1年生のみなさんは進級し2年生となります。4月には新しい1年生も入学してきて後輩ができます。後輩にとってよいお手本となるよう自分の行動を大切にしてほしいと思います。2年生のみなさんは最高学年となり山王中を引っ張っていく存在となります。それと同時に受験生にもなり、自分の進路をつくる年です。今のうちから自分のペースを確立していってほしいと思います。3年生のみなさんは一人一人の進路に向けて自信をもてるような準備に全力を尽くしてください。私たちはその真剣な姿から学ばせてもらいます。そしてそこから学んだことを自分たちの活動に反映させていきます。

今年も学校生活がよりよいものとなるよう生徒会ががんばっていききたいと思います。今年も一年間どうぞよろしくお祈りします。

## ～1月の取組から～

		
三者面談へのご協力ありがとうございました	有志（生徒・職員）による除雪	1/28 3年学年集会 生活委員会表彰

### [バレーボール]

- ・秋田市中学校新春バレーボール大会女子Bグループ **第3位**

### [女子バスケットボール]

- ・フレンドリーKカップ兼第30回田沢湖杯中学校女子バスケットボール大会 **優勝**  
予選リーグ 対湯沢南・山田 65-22、対郡山 74-16 1位通過  
準決勝 対角館 68-61  
決勝 対羽城 81-47
- ・第32回北緯40度中学校バスケットボール交流大会 **優勝**  
1回戦 対花輪 60-35  
準決勝 対男鹿東 67-41  
決勝 対山本・琴岡・八竜 58-34

## 栄光の記録

### [吹奏楽]

- ・第48回秋田県アンサンブルコンテスト中学生の部  
打楽器3重奏 **金賞** 飯嶋ひまり、志賀めいな、池内紀香  
金管6重奏 **金賞** 伊藤由菜、山中優依、新沼美和、田口世那、佐藤文音、越後谷凜

## 令和8年度以降の学級数ならびに一学級当たりの生徒数について

1月19日付けのおたよりでお示したとおり、来年度から一学級当たりの生徒数の基準が見直され、第1学年は35人、第2・第3学年は40人に基づいた学級編制を行うことになりました。

国の施策の変更により、令和8年度の中学校1年生から段階的に35人学級（現行40人学級）が導入され、令和10年度から3学年すべてで35人学級になることを見据え、秋田市教育委員会では、秋田市立中学校において来年度からこの基準で実施することとしました。

これまで秋田県は少人数学級推進事業（30人程度学級）を行ってきましたが、昨今の教員不足等の様々な要因から学級増のための人的措置を縮減することにし、国の施策変更のタイミングに合わせて実施されるものと受け止めています。

これにより、令和8年度の本校の学級数は、1年生5クラス、2年生5クラス、3年生4クラスのなる見込みです。一学級当たりの生徒数が新2年生で5～6人、新3年生で7～8人程度、現状より増えることとなります。

学級数が3減になることで、教員の持ち授業数が減る一方、一学級当たりの生徒数が増えることで学級担任や教科担任の負担が増えることが予想されます。また、山王中の教員数が年々減らされていることで、組織としての分掌や部活動数等を見直す必要も感じています。

今後も、変化に合わせた対応を検討してまいります。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。